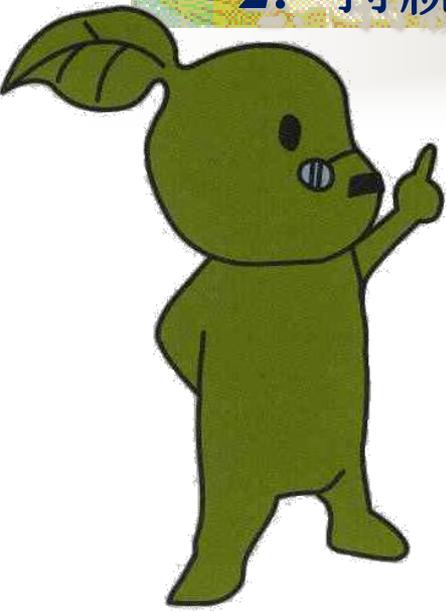


大学間連携バイオトープ研究活動の 概要と展望

1. バイオトープ研究活動の連携とネットワーク交流
2. 持続可能な地域社会の構築と環境教育の連携課題



坂井宏光
福岡工業大学 社会環境学部
FIT

1. ビオトープ研究活動の連携とネットワーク交流

◇福岡工業大学ビオトープ研究会の活動概要 と環境人材育成

2005年 7月に本学社会環境学部の研究会として発足
現在の活動人数・・・20名

主な活動目的

- ①キャンパス内に生物多様性の空間を作ったり、周辺地域の自然を観察・調査すること
- ②地域生活と密着した里山・ビオトープの動植物にふれ、理解を深めることで、自然と人・生活環境の関わりを身近な視点から考察
- ③大学間連携等によるビオトープネットワーク活動と環境教育の推進

福工大ビオトープの全景

2014年7月5日



毎年、美しいチョウトンボの舞が見られる。
(左、2013年7月、右2014年7月撮影)

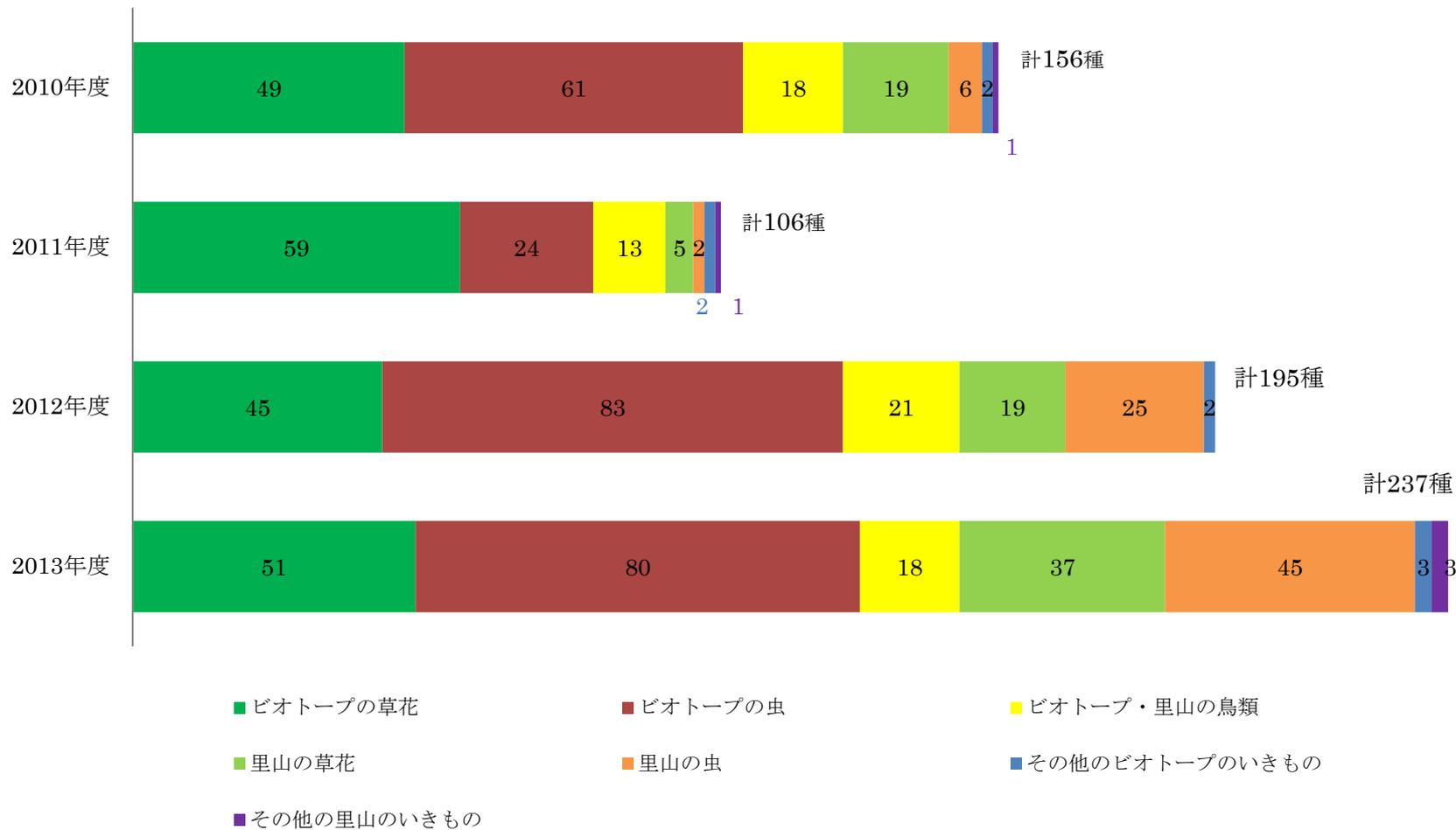


図1 福工大里山・ビオトープの生き物の種類
2010年～2013年

大学間連携ビオトープ活動の 環境教育としての役割

- ①地域環境交流の拠点
- ②自然体験型環境学習・・・自然観察研究の場
- ③環境保全体験学習・・・ビオトープ活動を通じた
地域の環境創生
- ④環境人材育成・・・ビオトープ管理士などの養成
- ⑤ビオトープ活動を通じた環境教育の情報発信

◇ ビオトープ研究活動と環境教育

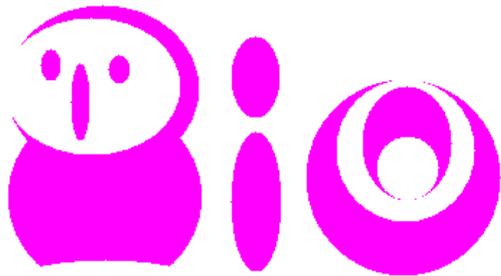
①大学間のビオトープ研究活動と交流・連携により、環境教育に資する人材育成を促進する。

・・・2012年度から長崎大学との交流

②また、2010年度からビオトープ・ネットワーク交流と環境教育を通じて、地域の自然環境の再生・創生に関する方法論を検討している。

・・・福岡県内の地域ビオトープ・ネットワーク交流の促進

・・・2015年度から新たに新宮町「人丸ビオトープ」で地域交流



長崎大学と福工大の環境系の資格49の認知度調査

- 2012年7月にアンケート調査（講義時に質問紙を配布し、回答後回収）
- 福岡工業大学社会環境学部学生359名
長崎大学環境科学部学生74名
- 有効回答数は各々294名（82%）、65名（89%）であった。

表1 福岡工業大学社会環境学部学生の環境系資格の取得意識

番号	資格名	回答数	%
49	eco検定	160	54%
1	ISO14001審査員	95	32%
9	ビオトープ管理士	86	29%
17	環境管理士	30	10%
19	気象予報士	24	8%
6	ダイビング・インストラクター	19	6%
13	家電製品アドバイザー	17	6%

表2 長崎大学環境科学部学生の環境系資格の取得意識

番号	資格名	回答数	%
47	環境再生医	15	23%
19	気象予報士	14	22%
16	環境カウンセラー	10	15%
49	eco検定	9	14%
15	環境アセスメント士	7	11%
26	樹木医	7	11%
9	ビオトープ管理士	5	8%
1	ISO14001審査員	4	6%
28	消費生活アドバイザー	4	6%

福工大ビオープでの自然観察会と環境教育

Since 2006

2010年月23日

4種類のヤゴを観察
してみましょう。



- 地域交流
- 環境保全活動
- 環境教育

里山・ビオトープを活用した地域交流



・第26回春の自然観察会後
の野草(ヨモギ)調理・試食交流会
・・・ヨモギ団子やホットケーキなど



春の自然の恵
みは、おいしい
ね!

2012(平成24)年4月29日

※ 自然観察会は、9年間で**35回開催し、延べ参加者は1,021人**となりました。
(2014年12月現在)

「ビオトープ」福岡工大生が活動



福工大のビオトープを観察する長崎大生ら（3月、福岡市東区）

生物の生息空間「ビオトープ」をめぐり、福岡工業大学（福岡市東区）の学生グループが活動の幅を広げている。地域住民との観察会に力を入れ、他大学との交流も始めた。熱心な活動が評価され、昨年には大学では異例の日本生態系協会（東京）会長賞を受賞。教育現場などに広がったビオトープは、管理が行き届かず荒廃した例も少なくない。学生らは「機運を再び盛り上げたい」と意気込む。

生物の空間、学生が守る

放置・荒廃に危機感

「ふだんはどうやって管理しているの？」

「水面から伸びた水草を取る以外は自然のままにしているよ」

他大学と交流

今年3月、長崎大の学生7人が福工大のビオトープを訪れ、「ビオトープ研究会」のメンバーに熱心に質問した。それぞれの活動を報告し合った交流会は3時間半余りに。「次は長崎大のビオトープを見学させて」。

福工大側は8月をめどに長崎大を訪れる予定だ。

福工大の研究会顧問の坂井宏光・社会環境学部教授は「ビオトープの管理方法などを長崎大の学生と研究し、新たにユニークなビオトープをつくりたい」と話す。福工大は山口大にも交流会を呼

▼「ビオトープ」生物意味するbioと、を表すtopoを含めたドイツ語で、「野生動物が生息する」と訳される。ドでは1970年代から日本では2000年

びかけている。福工大のビオトープ7年前、校舎の裏山の空き地を造成してられた。研究会は生息空間を壊さない必要以上に手を加え立ち入ったりしないの結果、約80平方メートルにはアメンボやが生息し、絶滅危惧類「シヤジクモ」の羽を持つチョウトも現れた。

研究会のメンバーは定期的に観察し、季節々の動植物など影。多くの学生に環境全に関心を持ってもらうと、ビオトープの入口には掲示板を設け、真を張り出している

活動に温度 年に4回ほどは地の観察会を開き、小学生ら数十人が参加学生は自生しているなど多彩なイベント画してきた。

長崎大学の中庭ビオトープ

2013年9月8日



◎環境教育の広域連携・推進(ビオトープネット)

◇2014年9月6日に、長崎大学との第3回大学間連携・ビオトープ研究活動・交流会を企画し、**30世紀の森づくりを進める北九州市・山田緑地**で開催



○地域環境連携～2015年1月19日

新宮町「人丸ビオトープ」と鎮守の森（里山）

- ・休耕田の活用
- ・公園の一部
- ・人丸神社の鎮守の森





里山・ビオトープ活動を通じて地域環境保全と
人材育成や、近隣の活動と連携支援・交流を進める。

◇大学ビオトープの比較研究結果

ビオトープの類型と特徴

	ビオトープの類型	①特徴 ②活動状況 ③活動課題
山口大学	河川ビオトープ (保全型)	①農地の用水路を活用 ②地域環境ボランティアや環境保全活動 ③地域生態系保全に課題
長崎大学	中庭造園ビオトープ (再現型)	①地下水を汲み上げた流水、と池 ②人工的な造園で植生や水の流れを維持 ③水の供給設備に問題
福岡工業大学	里山・ビオトープ (再現型)	①里山・池の保全活動 ②自然に近い状態での維持管理、雨水池 ③自然観察エリアが限定的

○地域環境連携・

新宮町「人丸ビオトープ」

2015年1月19日



からの要望(請願)
を生かした公園化
ワークショップ
計画策定を行い、
10年をかけて
して、4月には
大切に護られ
歴史を学び貴重
える公園として

のすみか(生き
周辺の森林や
動物のカシミ
などを含め、
ます。新たに
の視点に
して大切に

まとめ

地域環境問題に関する教育研究の大学
学間連携の推進

→ 環境人材育成と地域環境保全に貢献

ビオトープ活動を通じた環境教育の可能性

→ 地域環境問題から東アジアの広域環境問題に
関連した総合的な研究活動や相互の学生の
人材育成などでの連携が重要である。

